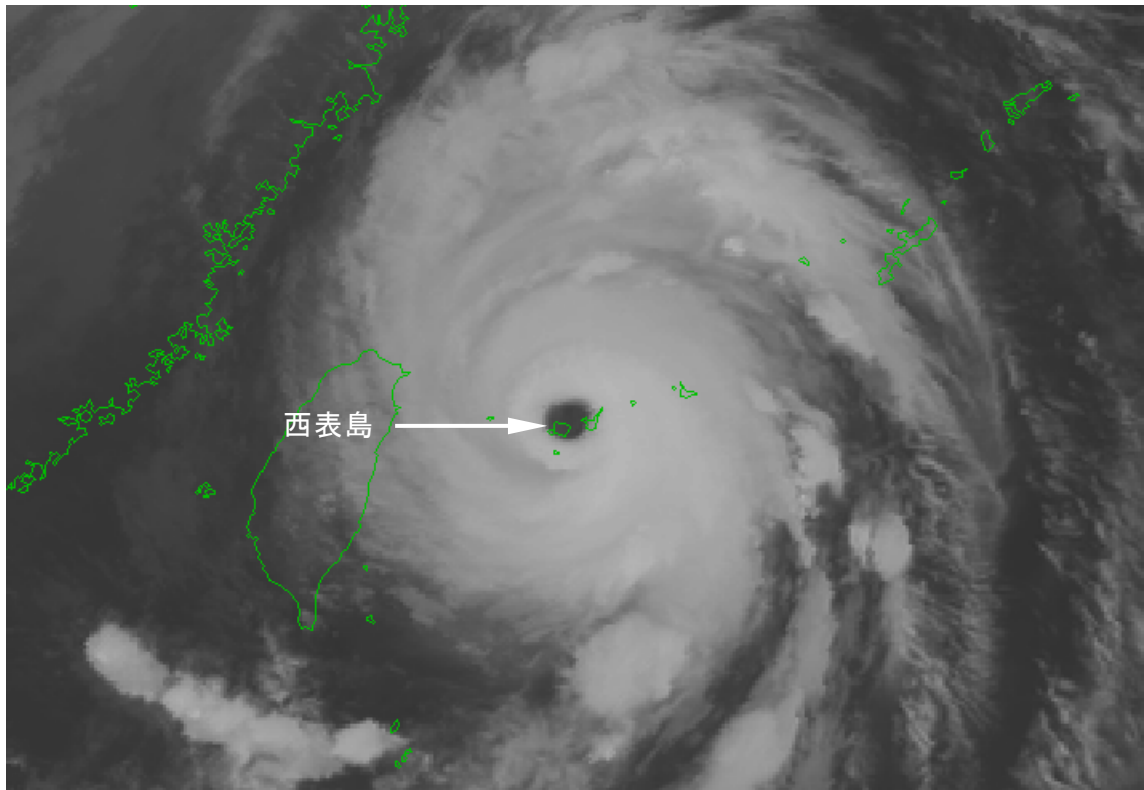


今月の気象衛星画像 (2006年9月)



2006年9月16日6時の赤外画像

西表島の真上を通過した台風

台風が最盛期に入ると、積乱雲で構成された滑らかな雲頂を持つ円形状の雲域と中心付近では眼の壁雲と呼ばれる内側に眼が形成される。眼の内部では気圧がほぼ一定で風も弱く、弱い下降流となり雲の殆ど無い領域となっている。

画像は9月16日6時の赤外画像である。この時刻には西表島が台風の眼の中心に入り、眼の周辺は雲頂高度の高い積乱雲で覆われ、中心に向かって外側から厚い濃密な雲バンドが巻き込んでいる。西表島では、台風が中心が接近する4時の平均風速は37.9 m/s、5時の前1時間降水量は52.5mmと猛烈な風と非常に激しい雨となっていたが、中心が通過する5時40分頃には風は急速に弱まり雨も観測されていない。この台風により、西表島では最低気圧が923.8hPaまで下がり、最大瞬間風速が69.9 m/sの猛烈な風を記録した。

この台風第13号は沖ノ鳥島の南で発生、その後八重山地方を通過し、九州北部に上陸後日本海に達した。この台風の影響により九州及び中国地方を中心に死者や鉄道及び道路に大きな被害が発生した。台風接近時には台風情報を的確に把握し、甚大な被害が発生しないように心掛けたいものである。

(気象衛星センター)